

第1回検討会における主な意見

「輪島市大規模課題を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会」 第1回検討会における主な意見

1 条件不利地域である半島部での大規模火災

《道路寸断により陸路での早期応援が困難》

- ・道路の寸断等に対応するため、陸路、海路等の活用や小型車両の活用を検討すべき。
また、受援計画において受援拠点を定めておくべき。

2 地震・津波の発生時における大規模火災

《住民・消防職団員が避難を要することによる火災発見・通報、初期消火の遅れ》

- ・地域の特性に応じ、火災の早期覚知対策、初期消火の実効性向上といった住宅防火対策に取り組む必要がある。
- ・感震ブレーカーの有効性を調査すべき。
- ・漏電遮断機が本当に機能していたのか。
- ・地域住民の防火防災意識の向上や消防団と一体となった地域防災力の強化を図るべき。

《津波浸水想定区域における消防活動》

- ・津波警報発令下における消防の活動要領について確認、見直しをする必要がある。
- ・津波警報下で消防活動のあり方について整理していくべき。
- ・無人で情報収集や消火を行う放水砲車や水幕ホース等の装備の整備や、更なる開発も必要ではないか。
- ・きめ細かい津波情報の発出について検討すべき。
- ・無人での消火機材等、安全を確保しながら活動できる方法を検討するべき。
- ・空中消火については予備注水をメインに複数機が連携して消火する必要がある。
- ・ハード面でできることがあれば、メニューを揃えて、地域の実情に応じて整備を進めるべき。

《断水、地盤の隆起及び津波により消火栓や自然水利の確保が困難》

- ・大容量の防火水槽やスーパーポンパー等の長距離送水システムの配備等について検討すべき。
- ・水位の低い河川ではディスクストレーナー等も活用できるのではないか。
- ・防火水槽の整備を引き続き推進すべき。
- ・これまでの各種対策を引き続き実施していく必要がある。

3 古い木造建物が密集した地域での火災予防対策について

《密集市街地での火災予防対策、不燃化対策、耐震化》

- ・まちづくりの観点から総合的に検討すべき。
- ・地域の特性に応じて出火防止対策・火災の早期覚知対策・初期消火の実効性の向上といった従来からの住宅防火対策に地道に取り組む必要がある。
- ・津波浸水想定区域の木造密集市街地の不燃化を優先的に進めるべきではないか。
- ・古い木造家屋については、モルタルが剥離して木造部分がむき出しになった事例が見られたので、地震時の市街地火災対策として再検証する必要があるのではないか。
- ・木造家屋の耐震化のような、マルチハザードリスクへ多様な効果があるものが特に重要ではないか。